

CAROWAA

CAROWAA —ちゃろわ

アチヨリの言語で「our village」「our home」「our land」といった意味を持つ言葉です。

JICAプロジェクトとともに自分たちの故郷がより発展する、という気持ちを込めて、グルオフィスの現地スタッフが名づけてくれました。

ちなみに配色イメージは北部らしく「ラテライト」です。



経済基盤開発部より調査団訪問

現在実施中の2件の開発調査型技術協力プロジェクトの担当課である経済基盤開発部より、三條課長、宮原職員が6月7～10日、初めて現地を訪問しました。

限られた出張日程の中、アムル県で実施中の道路プロジェクトの2現場、コミュニティ開発プロジェクトの6現場を訪れ進捗を確認するとともに、アチヨリ全域に広がる平和構築支援無償の対象サイト6か所のうち、4か所にも精力的に足を運びました。アムル県、パデル県、今年1月に新設されたラムウォ県のCAO (Chief Administrative Officer: 首席行政官)にも面会し、今後の展開について先方の要望を聴取するとともに、意見交換を行いました。



道路チーム・南団員の説明を受ける三條課長(写真中央)と宮原職員(左)



アティアック職業訓練センター校長と支援ニーズについて意見交換する三條課長

グルオフィスでは現在、経済基盤開発部、アフリカ部、ウガンダ事務所と協議、調整しながら、「ウガンダ北部復興支援プログラム」を展開するため、新規案件の検討を行っており、今回、実施中案件の原課から三條課長、宮原職員が派遣され、現場を視察することには大きな意味があります。

これまで思い描いていたイメージと実際の現場では異なる点も多々あったようですが、現場の声を日本に持ち帰り、今後、切れ目ない支援のための新規案件の策定、アチヨリ全域への迅速なプログラム展開が可能になるよう、強力なサポートを期待しています。

アムル県IDPキャンプ閉鎖セレモニー

アムル県には紛争時に政府によってつくられた国内避難民(IDP)キャンプが34か所存在しました。治安の回復とともに国内避難民の出身村への帰還が進み、キャンプも順次閉鎖されています。

キャンプ閉鎖の手続きは首相府の方針に基づいています。各県がキャンプ閉鎖を検討する委員会を設置し、支援ドナーやNGOがキャンプを訪問、各種調査や住民からの意見聴取の結果を委員会に報告し、県知事が招集する議会にて閉鎖が決定されます。基本的には現在の人口が2005年のキャンプ人口の50%以下であることが基準となっていますが、閉鎖されるほとんどのキャンプ人口は現

在、10%以下に大きく減少しています。

今年4月の段階で、アムル県には19か所のキャンプが残っていましたが、そのうち5月19～20日で18か所のキャンプが閉鎖され、選ばれた2つのキャンプ地にて関係者を招いた式典が行われました。

式の大部分は県関係者や援助関係者からのスピーチで構成され、合間には地元グループがダンスを披露、最後は参加者がハンマーなどを手に、実際にハットを壊すデモンストレーションで終了。どこも10年以上の歴史を持つキャンプですが、その重みはあまり感じられず、明るく閉鎖されていきます。

「閉鎖」とはいえ、一般的な難民キャンプとは

違い、ウガンダ北部のIDPキャンプは、敷地周辺にもともと居住していた住民や自主的に留まっているIDPもいるため、人口ゼロとならなくてもクローズすることが特徴です。したがって閉鎖セレモニーは象徴的なもので、実際にはキャンプ閉鎖後もドナー機関の支援は規模を縮小しながら継続されています。ただ、今後はキャンプではなく、「Former Camp」と呼ばれます。

アチヨリ地域全体では紛争中、121か所のキャンプが存在しましたが、6月現在で82か所が閉鎖され、残るは39か所となっています。スーダン国境近くのキトゥグム県、カラモジャ地方と県境を接するパデル県の一部のキャンプは現在も治安が不安定であり、しばらく存続されるとのことですが、その他のキャンプについては今年中にはほとんどが閉鎖される見込みです。



地元の若者グループによるダンス



式典のクライマックス。関係者が揃ってハットを壊す。



ハンマーを手に、デモンストレーションを行う女性。

パイロットプロジェクトの進捗状況～道路チーム

着々と進んでいるパイロットプロジェクトの進捗状況についてお伝えします。

「橋梁1」では橋梁の4つの基礎部分にコンクリートが流し込まれました。人と自転車が辛うじて渡れた木製の旧橋(ニュースレター第7号参照)もついに取り外されました。しかしここで問題発生！6月15日未明、洪水が発生したのです。アスワ川上流での大雨の影響で、工事のため流れを変えていた川の締め切り部分を大量の水が越流し、橋梁の基礎工事現場全体が湖のようになってしまいました。予想をはるかに超えた水量で、早急にポンプでの排水作業を行いました。工程に若干の遅れが見込まれています。

「橋梁2」については周囲が大きく切り開かれ、風景がずいぶん変わりました。前後の道路も整備され、カルバート設置作業が進んでいます。



「橋梁1」工事現場 (2010年5月)



「橋梁1」工事現場 (2010年6月)
橋脚基礎部分の掘削が終了した。



「橋梁2」工事前



「橋梁2」工事現場 (2010年6月)
周囲が切り開かれた

どうなる？アムル県分割

前号で7月1日からアムル県が2つに分割されるというニュースをお伝えしましたが、既に6月後半という時期になり、ようやく新設されるヌウオヤ県の動きが見えてきました。グルオフィスではこれまでも情報収集に努めていましたが、新県設置までの具体的な動きを把握できない状況が続き、「本当に新しい県は始動できるの？」とこちらの方がハラハラしていたほどでした。

この背景には、政府による県分割という方針のみが先行し、具体的な準備作業がなかなか進まない現状があります。通常、県が分割され、新行政がスタートするためには、新県庁舎の準備、職員の配置、県知事選挙等さまざまな取り組みが必要と思われませんが、今のところ新県のCAO(首席行政官)が任命されたのみで、県庁舎は郡事務所に分仮住まいの模様、県知事選挙は来年の大統領選挙と

同時期に開催予定、県職員は現在リクルート中など、なんとも悠長な話ばかりが耳に入ってきます。

これまでの他地域の例を見ても、新県設置が決定してから実際に行政機能が整備されるまで、数か月以上かかっており、今回も同様の動きのようです。常にスローなウガンダの人たちですが、県分割もじわじわと進む模様です。引き続き情報収集し、ニュースレターでお伝えします。

ウガンダ北部 開発パートナーとの連携

20年以上に渡る紛争の影響で、これまでウガンダ北部では緊急・人道支援系のドナーが中心に活動していました。治安の回復とともに協力ニーズが緊急・人道支援から復興・開発支援に移行している現在、多くの人道支援系のドナーは規模縮小、または北部から撤退しており、現地では復興・開発支援プロジェクトが増えています。しかしながら復興・開発を担うドナー同士のつながりが少なく、互いの活動がわからない、という声が上がっていました。

これを受けて、先月よりJICA、USAID、UNDPの3機関で定期的なミーティングを持つことになりました。お互いの活動内容や情報を共有することで連携を図り、プロジェクトの相乗効果発現を目指します。

このような動きはJICAの協力が北部のドナー機関に認知され、現地でのプレゼンスが高まっていること意味しており、これまでの活動や広報戦略が実を結び始めていることを実感しています。

盛り上がってます！W杯

スポーツといえばサッカーしかないグル。今の話題といえば常にW杯です。ナショナルスタッフもいつもそわそわ、終業時間ぴったりに戻っていきます。グルオフィス、コンサルタントチームの日本人も例外でなく、できるだけ大きなテレビのあるレストランで席をキープし、(時々停電しますが)一生懸命観戦しています。こちらの人は当然ながらアジアのチームにほとんど興味がないため、ウガンダ人に囲まれての応援は若干肩身が狭いですが、負けじとわいわいやっています。

